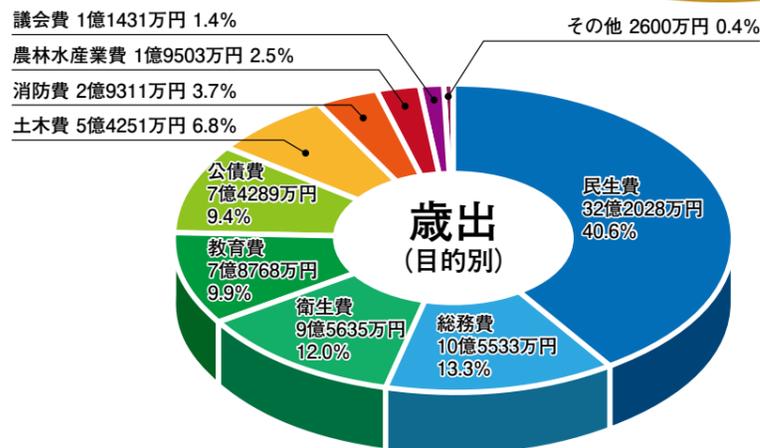
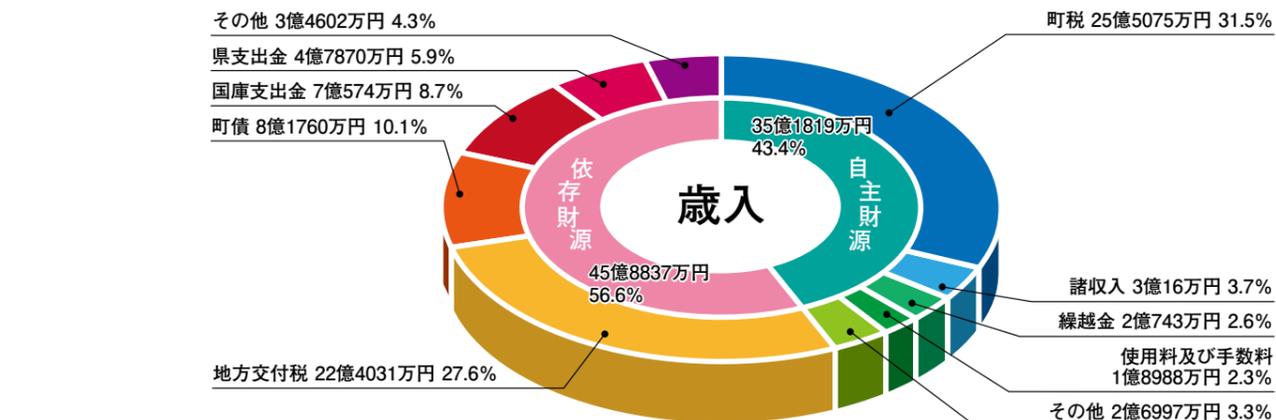


歳入 一般会計歳入総額 81 億 656 万円



歳出 一般会計歳出総額 79 億 3349 万円

平成24年度 一般会計決算 (歳出総額)

79 億 3349 万円

全員賛成で認定

前年度比 2.7%増

平成24年度一般会計決算は、歳入総額81億656万6822円に對し、歳出総額79億3349万6837円で、歳入歳出差引額は1億7306万9985円となりました。歳入総額は初めて80億円を超え、歳出総額についても3年連続で決算額の増加を更新しています。財政構造の弾力性を示す経常収支比率は84.9%から85.3%へ0.4ポイント硬直化しています。歳入では、地方交付税が22億4031万円(1.5%増)となっています。町の自主財源のおよそ7割を占める町税は25億5075万円、固定資産税は、固定資産の評価替えに伴い調定額が下がりましたが、税制改正により個人住民税が増収となり、町税全体では0.5%増となりました。歳出では、人件費が11億660

1万円で、7168万円の減額(2.1%減)となりました。職員数は、この7年間で約40名削減されています。普通建設事業費は9億4763万円で、2億5589万円の増額(3.7%増)です。平成15年度以降で見ると、24年度は最大の事業費となっています。その主な事業は、れいんぼー幼稚園の建設・須恵中学校の校舎耐震補強・役場庁舎の空調設備改修のほか、JAやすらぎ会館と九州自動車道の間を整備したポケットパークなどです。24年度の特別会計等への繰出金は11億8183万円で、前年度に引き続き11億円を超えています。また、24年度は基金を取り崩すことなく、基金残高を27億1100万円とすることができました。審査の結果、予算は適正に執行されているものと認めました。

平成24年度決算の概要と議決結果

会計名	歳入(収入)	歳出(支出)	差引額	議決結果	
一般会計	81億656万円	79億3349万円	1億7307万円	全員賛成で認定	
特別会計	国民健康保険	31億3829万円	31億3204万円	625万円	全員賛成で認定
	後期高齢者医療	2億5037万円	2億3822万円	1215万円	全員賛成で認定
	公共下水道事業	10億3930万円	10億3184万円	746万円	全員賛成で認定
	農業集落排水事業	8057万円	7697万円	360万円	全員賛成で認定
水道事業	収益的	5億8100万円	5億3010万円	5090万円	全員賛成で認定
資本的	3449万円	2億867万円	△1億7418万円	全員賛成で認定	

※経常収支比率  
人件費や公債費などの通常経費に、地方税や地方交付税などの通常の財源がどの程度充当されたかを見る指標で、比率が低いほど財政構造に弾力性があることを示します。糟屋地区の市町の平均(平成24年度)は、約87.3%です。

決算審査 意見書

町独自の財政運営で

平成24年度須恵町一般会計、特別会計ならびに水道事業会計について、監査委員による決算審査が6月から8月にかけて実施され、その結果が意見書として9月3日、町長に提出されました。

決算審査意見書要旨

審査に付された各決算資料等は関係法令に準拠して作成されており、その計数は関係諸帳簿その他証書類と照合した結果、誤りのないものと認められた。

また、予算の執行および関連する事務の処理は適正に行われているものと認められた。

23年度に比べ、歳入では地方交付税・町債・諸収入の増が大きい。また、財産収入は1億7205万8千円の大増減となっている。

昨年より不納欠損額が減っているが、不景気の経済状況にあることから、収入未済額も年々増加傾向にあるため、収納事務の強化が必要と思われる。

24年度末の町債残高は増加しているが、財政調整基金の残高は24億2928万1千円が確保され、財政運営の努力は評価される。

政府の経済対策に依存されることなく、町独自のさらなる財政運営に努力邁進することを期待する。



町長に意見書を提出する百田監査委員(写真中央)と藤石監査委員(写真左)

9月 定例会

決算額が過去最高に

平成25年第3回定例会は、9月6日から19日までの14日間で行われ、提案された議案13件は、原案のとおり可決・承認されました。

